

デリバリー変革

AIドリブンデリバリー & モダナイゼーション

富士通株式会社
執行役員副社長 COO（サービスデリバリー）
島津 めぐみ

2026年9月16日



執行役員副社長COO（サービスデリバリー）

島津 めぐみ Shimazu Megumi

1987年にシステムエンジニアとして富士通株式会社に入社。

製造業の顧客を中心に大規模システムインテグレーションプロジェクトを担当。

2009年に米国に拠点を移し、日系企業の現地拠点システムインテグレーションプロジェクトに従事。

2015年よりインフラサービスビジネス領域責任者として、安定的な利益体質への改善を実現。

2021年にはインフラサービス領域に加え、サービスデリバリーを担当。

2022年より英国へ拠点を移し、サービスデリバリーのさらなる改革を推進。

さらに、モダナイズेशन事業の責任者として全社リード。

2024年に帰国、現職（COO）に至る。

Section 1

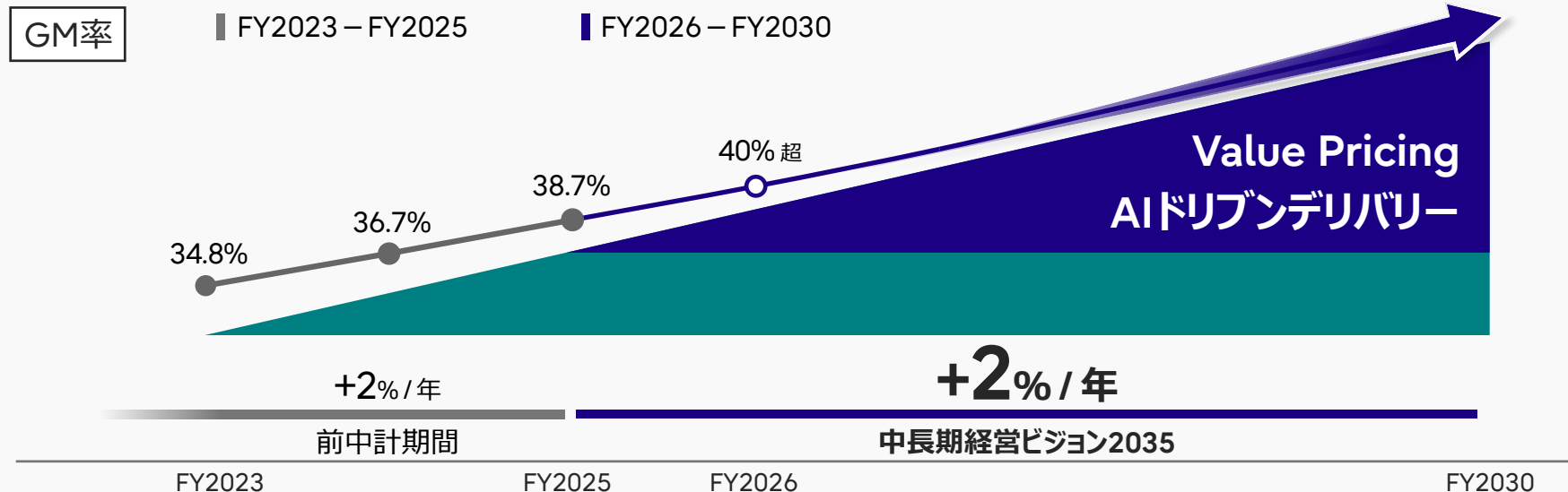
AIドリブンデリバリー

お客様へのスピードアップと品質向上の価値提供を目指す

サービスソリューション



サービスソリューションにおけるGross Margin



GM率向上のための施策

- 国内エンジニア集約
- オフショア拡大
- 標準化・自動化

- Value Pricingによる成長加速と収益構造変革
- AIドリブンデリバリーの推進
- エンジニアのさらなる集約・最適化
- 標準化・自動化

AIドリブンデリバリーへの変革

デリバリーの工期短縮と品質向上を実現し、お客様のビジネス機会創出に寄与する

AI driven
delivery

従来型開発

人が全ての工程を実行

要件定義



設計



開発



テスト



AI活用 Lv1

生成AIプロンプト対話型開発

人が一つずつ指示し、生成AIが個別作業を補助

要件定義



設計



開発



テスト



AI活用 Lv2

AIエージェント活用開発

AIが工程内を自動実行し、
工程間は人が確認・判断

要件定義



設計



開発



テスト



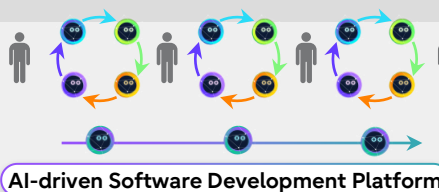
AI活用 Lv3

マルチAIエージェント

活用開発

自社独自のマルチAIエージェント技術
により複数工程を自動実行

目的・
要件設定
人が指揮



品質・
最終判断
人が責任を担う

富士通の強み

- 業種知見・マネジメント知見を加えた
デリバリー用AIエージェントを開発

- AI有識者による実践
FY2026トップガンPJを先行推進

- 自社LLMを保有

Takane

- フロンティアAIと戦略的提携

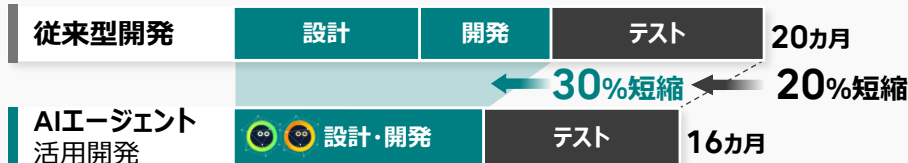
★ Claude OpenAI

- トークン利用量とモデル選択を
最適化する制御を自社開発

・ 全社でAIドリブンデリバリーに取り組み実践

Lv2
AIエージェント
活用開発

製造A社 業務刷新のためのDXプロジェクト（売上規模数十億円）



金融B社 PaaS/SaaSを活用した既存業務システムのクラウドリフト



Lv3
マルチ
AIエージェント
活用開発

自社PKG 自社LLM「Takane」を核に、法制度の理解・要件定義から、設計～テストまで、一気通貫の自動化をAIで実現



2026年2月17日プレスリリース

「大規模言語モデル「Takane」を活用し、ソフトウェアの要件定義から設計、実装、結合テストに渡る全工程をAIエージェントが協調し実行するAIドリブン開発基盤を開発し、運用開始」

AIドリブンデリバリーの今後の展望

AI活用の最大化を図り、お客様にスピードアップと品質向上の価値提供を目指す

AIドリブンデリバリーの最大化

AI活用開発の拡大（裾野拡大）は完了

FY2025：AI活用開発を全プロジェクトへ展開済み

※ 現状、AI適用制約のあるお客様は除く。制約が解消次第順次展開予定。

AIドリブンデリバリーの深化（深掘）

L1からL2、L2からL3へ拡大

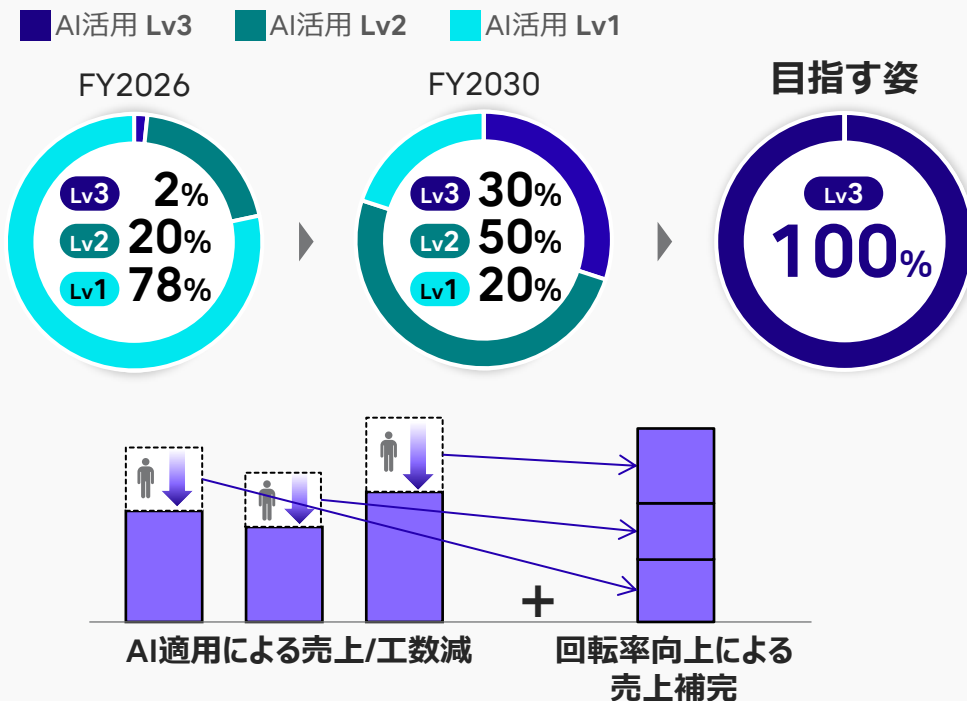
高度AIスキル保有者を先行プロジェクトへ集中投入

AI活用・Value Pricingによる収益拡大

値下げ圧力による売上減少を

AI活用による回転率向上から補完

※ 売上金額ベースの割合



Section 2

モダナイゼーション

レガシー資産からの脱却を軸に市場・顧客にアプローチ

サービスソリューション



モダナイゼーションのいま

富士通

お客様レガシー資産からの脱却を目指す

富士通モダナイゼーション

アプリケーション資産

COBOL・PL/I等

▶ Java・.Net等

ミドルウェア資産

レガシーミドルウェア

▶ 最新ミドルウェア

インフラ資産

オープンプラットフォーム

レガシープラットフォーム

▶ クラウド & 最新オンプレ

- ・ **富士通レガシープラットフォーム終息 (MF/UNIX)**
ーFY2022終息宣言 / FY2030販売終了 / FY2035保守終了
ーFY2035稼働ゼロを目指し着実な終息を推進
- ・ **生成AI技術をモダナイゼーションに実装**
価値向上、要員不足解消、早期レガシー資産脱却、収益向上へ

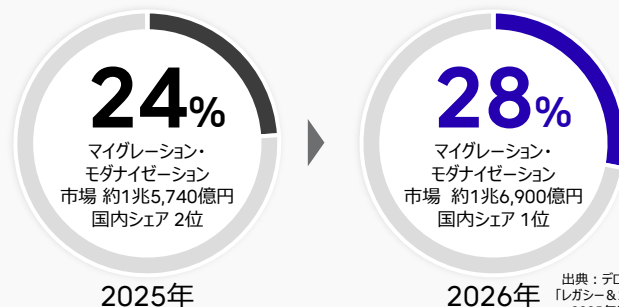
市場・顧客

各社本格参入、引き続き市場拡大

(前年比 8 % 伸長 1.7 兆円)

出典：デロイト トーマツ ミック 経済研究所株式会社
「レガシー & オープンレガシーマイグレーション市場動向 2025年度版 (2025年9月発行)」
(mic-r.co.jp)

モダナイゼーション 国内シェア1位



出典：デロイト トーマツ ミック 経済研究所株式会社
「レガシー & オープンレガシーマイグレーション市場動向
2025年度版 (2025年9月発行)」 (mic-r.co.jp)
※2026年のシェア・順位については富士通予測

モダナイゼーションを取り巻く市場環境

ITモダナイゼーション

市場CAGR

[2026年-2030年]

10.2%

出典：IDC Japan
「2026年 国内 IT モダナイゼーション市場動向 #JPJ53875726 (2026年2月)」

大企業・中堅企業

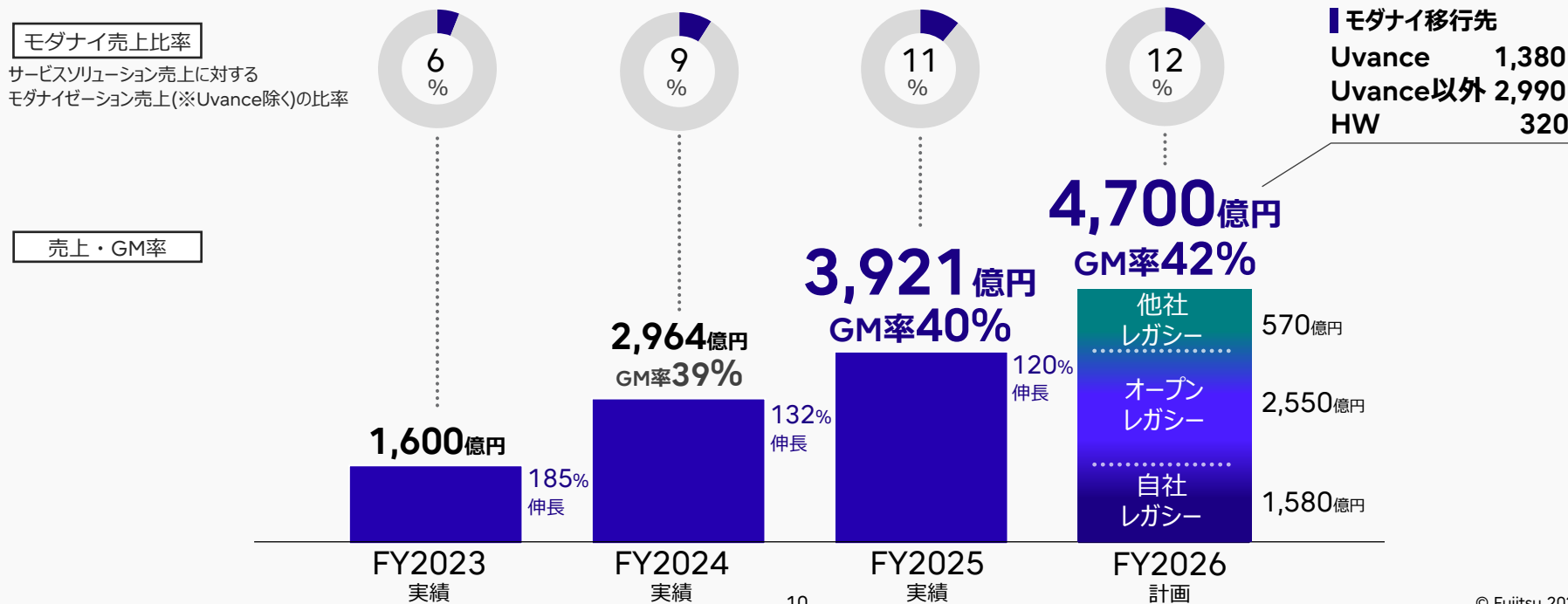
レガシーシステム保有

80%

出典：IDC Japan
「2026年 国内 IT モダナイゼーション市場動向 #JPJ53875726 (2026年2月)」
「2025年 国内 CIO調査 #PJ52244025 (2025年6月)」

モダナイゼーション 振り返り

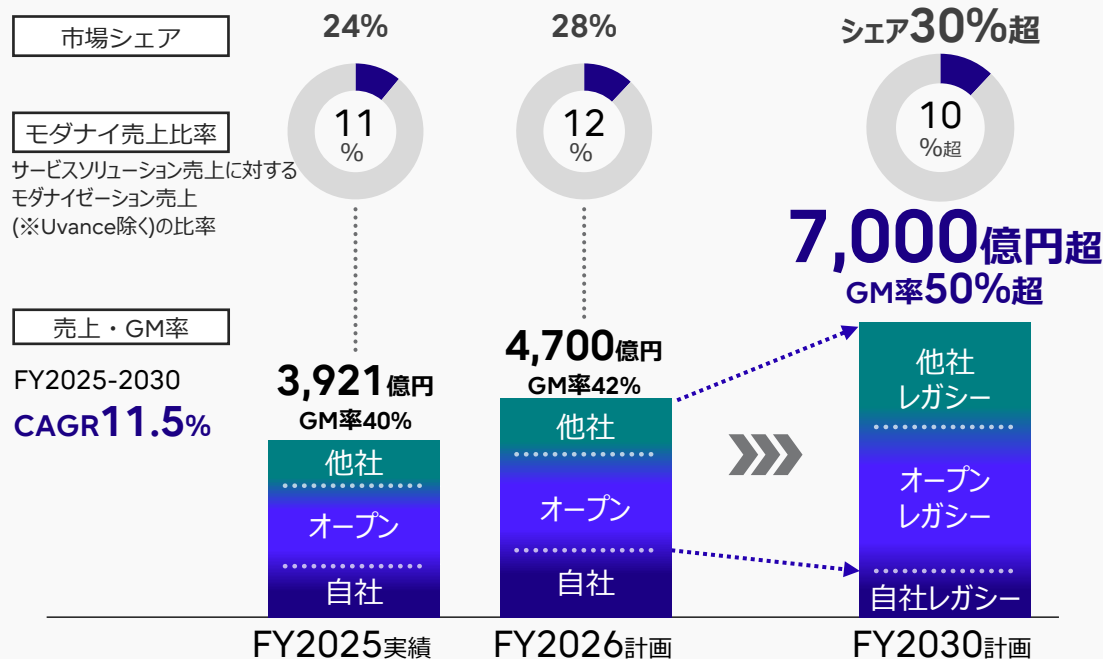
- FY2025 売上目標は大きく過達（32%伸長）、FY2026 売上20%伸長/GM率+2%を目指す
- サービスソリューション売上比率は12%を計画



モダナイゼーション 今後の展望

自社レガシーPJピークはFY2028

2030 自社から他社/オープン市場へ



出典：IDC Japan「2026年 国内 IT モダナイゼーション市場動向 #JPJ53875726（2026年2月）」をもとに富士通予測

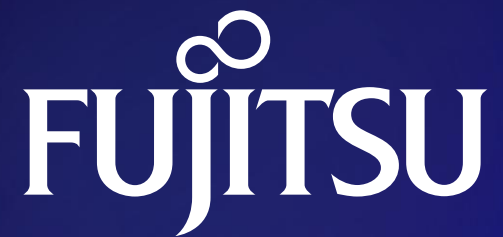
2035 レガシーからAXへ

Modernization for AIとして 次世代の新ビジネス領域を創出

Legacy Modernizationで培った
知見・人材・ツール・テクノロジーを徹底活用



中長期ビジョン2035資料より



免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

- 主要市場における景気動向(特に日本、欧州、北米、オセアニア、中国を含むアジア)
- 為替動向、金利変動
- 資本市場の動向
- 価格競争の激化
- 技術開発競争による市場ポジションの変化
- 部品調達環境の変化
- 提携、アライアンス、技術供与による競争関係の変化
- 公的規制、政策、税務に関するリスク
- 製品、サービスの欠陥や瑕疵に関するリスク
- 不採算プロジェクト発生の可能性
- 研究開発投資、設備投資、事業買収・事業再編等に関するリスク
- 自然災害や突発的事象発生のリスク
- 会計方針の変更